

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.78

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

東京オリンピックから 50 年

竹中龍範

昨秋、ブエノスアイレスで開催された IOC 委員会総会にて 2020 年のオリンピック東京開催が決定され、日本中が沸き立った。その開催に向けての動きもすでに出始めているが、今年 2014 年は前回の東京オリンピックからちょうど 50 年にあたる。先日も NHK ラジオがこの 1964 年東京オリンピックを振り返る番組を流すということで、その第 1 回を放送していた。古関裕而作曲にかかる入場行進曲が流れ、昭和 39 年 10 月 10 日に聞いたこの曲を思わずハミングしていた。筆者はこの時小学校 6 年生、10 月 10 日はちょうど学校の創立記念日で、テレビの画面に釘付けになっていた。

この東京オリンピック前には、名神高速道路や東海道新幹線が開通するなど、日本は高度成長期に入っており、さらには 6 年後の大阪万博に至る時代、まさに戦後を脱皮した日本の発展期であった。オリンピック、万博ともに海外との関係に意識を向けさせるものであることもあって、そこに英語ブームが起きるのは必然の成り行きであった。テレビが普及し、テープレコーダーもオープンリールからカセット型へと進化する中で、英語が生音声で聞けるようになり、学校に LL 教室が設置されたが、果たしてその対費用効果はどうであったろうか。

開国、明治維新後の英語ブーム以降、鹿鳴館時代、終戦直後、そしてこの東京オリンピック・大阪万博開催時と、なにがしか海外との関係に意識が向けられる時代になると英語ブームが再燃しているが、そこで日本人の英語力が飛躍的に伸びたという話が聞かれないのは歴史の示すところである。今度の 2020 年東京オリンピックまであと 6 年、日本人の英語力はどの程度伸びるのであろうか。あるいは、現在の ICT の発達を見ると自動翻訳・通訳機器の性能ばかりが伸び、人間の方には英語ブームすら期待できないという可能性もある。

もっとも、東京でのオリンピックに話を戻せば、1964 年より前、1940 年のオリンピック開催が東京と決定されていた。しかし、この東京オリンピックは、日本が日中戦争に突入し、オリンピック関係施設の建設よりは軍用資材の調達が先であるなど、軍部からの圧力があつたりして結局オリンピック開催権を返上して幻のオリンピックとなってしまった。ただ、この開催権返上の決定までは、東京市も市職員の英語力強化策を計画しており、民間でも *Olympic Conversation* という本が一般編、上級編にわたって出版されたりしている。後者の英会話教本はどれかの段ボール箱に入れたままとなっていて、今俄かには取り出せないが、オリンピック開催に向けて英語の必要性が認識されていたことの証であると言える。

つぎの 2020 年東京オリンピックに向けて英語ブームがどれくらい盛り上がるか予測はできないが、この人類共有の宝であるスポーツの祭典が平和裡に開催されることを願うばかりである。

(香川大学 / 日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

日本英学史学会 中国・四国支部

平成26年度 総会・第1回(通算70回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成26年度支部総会、及び第1回(通算第70回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、若手・中堅会員によるシンポジウムが予定されています。お誘いあわせの上ご参集ください。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2014年5月24日(土) 13:00 受付開始
会場： サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター) 604 中講義室(6階) 〒730-0051 広島県広島市中区大手町1-5-3 TEL 082-258-3131
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会(13:30~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、新年度活動計画、他

開会行事(14:00~14:10) 支部長挨拶 田村 道美(香川大学名誉教授)

シンポジウム(14:10~16:45)

「英学史研究とこれからの英語教育」

趣旨説明(14:10~14:20) コーディネータ 馬本 勉

問題提起(14:20~14:35)

「中学校・高等学校の教育現場から」 鉄森 令子(広島県立祇園北高等学校)

提案1(14:35~15:00)

「教師と生徒が触れる英文を考える」 能登原 祥之(同志社大学)

提案2(15:00~15:25)

「教室での実践史にヒントを求める」 隈 慶秀(福岡県立明善高等学校)

提案3(15:25~15:50)

「訳読史とアクティブ・ラーニング」 馬本 勉(県立広島大学)

< 休憩 >

指定討論(16:00~16:15)

「教員養成の側から歴史研究をみる」 保坂 芳男(拓殖大学)

全体討議(16:15~16:45)

閉会行事(16:50~17:00) 副支部長挨拶 上杉 進(元 高水高等学校)

懇親会(17:30~19:30) 広島市内中心部の会場にて 会費 4,000円程度

【シンポジウムの概要】

70回の節目を迎えた今回の研究例会では、「英学史研究とこれからの英語教育」と題するシンポジウムを催し、これまでの研究を現代の英語教育に活かす糸口を探っていきます。

まず、急ピッチで進む英語教育改革の中で、今、教育現場に何が求められ、何が課題となっているのでしょうか。英語の授業には、その形態や指導方法、教科書の扱いや評価法など、学習者と向き合う教師が取り組むべき多数の課題があります。英学史研究はそれらの課題に解決策を与えてくれるのでしょうか。そうした「問い」を問題提起の形で投げかけます。

次に3名のパネリストから、問題提起を受けた提案を行います。辞書の用例、授業実践、訳読などの歴史をひもときながら、現代に活かす方策を考えていきます。英学史研究が守備範囲としてきたことがらの中に、どのようなヒントを見出すことができるでしょうか。各パネリストの研究テーマの中から検討材料を示し、提言をまとめていきます。

パネリストによる提案の後、指定討論者による総括を行います。その上で、例会参加者全員で質疑応答や意見交換を行い、議論を深めていきます。皆様の積極的なご発言をお願いいたします。

会場案内 (サテライトキャンパスひろしまホームページより)



サテライトキャンパスひろしま (広島県民文化センター5・6階)

エディオン本館から南へ約100m

〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3
TEL : 082-258-3131 FAX : 082-258-3010

中国・四国支部ニュース

>> 事務局よりお知らせとお願い

名簿の改訂について

「会員登録内容の確認について」を同封しています。変更のある方は5月21日(水)までにお知らせください。合わせて、総会・例会・懇親会(5月24日)の出欠についても、ご回答をお願いいたします。

会費の納入について

5月24日(土)の支部総会、研究例会へご参加の方は、平成26年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第17号、および今年度の名簿をお渡しする予定です。

ご欠席の方へは、例会終了後、今年度の紀要、名簿とともに、年会費用の振込み用紙をお送りします。

昨年度未納の方へは、2年度分をご請求申し上げます。続けて未納の場合は、2年目の年度末をもって「自然退会」となりますので、ご理解のほど、よろしくお願ひいたします。

英学史情報ひろば

第160~164回「広島ラフカディオ・ハーンの会」ニュース(2013年12月~2014年4月)

[風呂鞆先生より]

『広島ラフカディオ・ハーンの会々誌』第1号(ニュース No.1~No.15 採録)

平成26年1月31日発行

(内容)

「会誌」第一号発刊にあたって(風呂鞆)

小泉八雲研究会(広島地区)の結成会 案内
ニュース No.1(2000.8.5.)~No.15(2001.12.1.)

会員による論考、エッセイ

「研究余滴 徳川光圀に関する記載をめぐって」
「ヘルン先生が敬愛した籠手田安定知事」ほか

日本英語教育史学会第30回全国大会

平成26年5月17日・18日、拓殖大学にて開催
(本支部会員による講演・研究発表)

講演「日本英語教育史研究の歩みと展望」

江利川 春雄(和歌山大学)

研究発表

「明治期独習書データベースの作成と活用につい

て」馬本 勉(県立広島大学)

「日本英語音声教育史：岸本能武太のアクセント指導をめぐって」田邊 祐司(専修大学)

「明治初期における小学校英語教育：京都市番組小学校の例を中心に(3)」保坂 芳男(拓殖大学)

英学史学会全国ニュース

>> 第51回全国大会

平成26年10月18日(土)・19日(日)

福井大学文京キャンパスにて開催予定

>> 関西支部第50回記念支部大会

平成26年6月7日(土)・8日(日)

兵庫県立大学環境人間部キャンパス

(記念講演)北垣宗治「関西支部と重久篤太郎」

(研究発表)岩上はる子「F.V.ディキンズの足跡を訪ねて」、加藤詔士「お雇い造船学教師P.A. ヒル

ハウスの推薦」、増井由紀美「朝河貫一と坪内士行との関係をひもときながら大正初期の演劇事情の

一端を探る」、石井容子「再来日時(1893年8月)

のジェインズに関する風聞書簡」

広島英学史の周辺(44) 年度初めに備え、研究室の片づけを試みた。予想通り、片付くどころか一層乱雑に。ただ、収穫もあった。しまい込んだまま行方不明だった中学時代の「英語連語・文型集」と再会したからだ。

B5判全14ページ。担任の先生自作のプリント7枚を2つ折りにして綴じたものだ。中学校で学ぶ重要連語25と重要文型が13、さらにその他の重要連語26が例文とともに掲載されている。例文はタイプライター、訳文や解説は手書き文字だ。赤鉛筆で囲んだり塗ったりしたあの頃を思い出す。I heard the girls singing. という例文には、girls と singing を結んで「ネクサス」との書き込み。後で Jespersen の用語と知った。このプリントと「腑に落ちる」説明が、私の「英文法学び始め」だった。皆様、例会でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.78

2014年5月10日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 田村 道美)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話 & FAX: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.78 May 10, 2014